

中国語教育学会会報

第 65 号(通巻 90 号) 2023 年 9 月 29 日発行

〒161-8539

東京都新宿区中落合 4-31-1

目白大学外国語学部中国語学科

氷野善寛研究室内

中国語教育学会

Website <http://www.jacle.org/>

Email headoffice@jacle.org

郵便振替口座 00110-1-191152

目次

1. 第21回全国大会について	1
2. 2022年度第2回理事会報告	2
3. 2023年度会員総会報告	9
4. 2023年度研究会開催報告	11
5. 中国語教育ワークショップ	11
6. 事務局からのお知らせとお願い	12
6.1. 会員動向及び会費納入状況	12
6.2. 会費納入のお願い	13
6.3. 退会および除籍について	13
6.4. 登録情報の変更について	13
6.5. 住所不明の会員	14

1. 第 21 回全国大会について

中国語教育学会第21回全国大会が2023年6月3日（土）および4日（日）の両日、東海大学湘南キャンパスを会場に、3年ぶりの対面方式により開催されました。初日午前中には第1回編集委員会および第1回理事会が開催されました。午後は開会式に続き、基調講演に日本の中国語教育研究を長年にわたり力強く牽引されて来られている古川裕先生ならびに郭春貴先生にご登壇頂き、それぞれ「中国語における“対”の表現と文法特徴」、「日本的大学汉语教育何去何从?」というタイトルでご講演いただきました。その後、シンポジウム「中国語教育文法の設計に必要な談話文法の視点」が行われ、夕方からは会員総会が開催されました。大会2日目は2つの分科会に分かれ、午前午後あわせて11本の口頭発表が行われました。当日のプログラムについては学会HPをご覧ください。今回の大会では165名の方から事前申し込みがありました。また 17社が書店・出版社展示会に参加されました。当日は前日の台風の影響もあり会場に来ることが出来なかった会員もおられました。発表者、司会者の方々、参加して下さった会員の皆様、そして全国大会の準備にご尽力くださった第21回全国大会準備委員会の先生方に厚く御礼申し上げます。

2. 2022年度第2回理事会報告

2.1. 開催日時・方式・出席者

日 時：2023年6月3日（土）10:30-12:30

方 式：東海大学湘南キャンパス（ZOOMを併用）

出席者（敬称略）：

氷野善寛、加藤晴子、植村麻紀子、鈴木慶夏、西香織、西村英希、
平井和之、藤井達也、三宅登之
伊藤大輔（デジタルリソース委員会委員長）
森山美紀子（第21回全国大会準備委員会委員長）
上野振宇、張雯茜（幹事）

オンライン出席：

清原文代、丸尾誠、阿部慎太郎、長谷川賢、紅粉芳恵、渡邊ゆきこ
中田聡美（幹事）

石井友美（『中国語教育』22号（2023年度）編集委員会委員長）欠席者（敬称略）：

欠席者：

佐々木勲人、陳淑梅

2.2. 報告事項

2.2.1. 会員動向および会費納入状況

上野幹事より、会員動向及び会費納入状況により以下の通り報告された（敬称略）。

会員動向（会員数、新入会者、退会届提出者、会費納入状況）

(1) 会員数（2023年5月15日現在）：計574名

個人会員553（通常会員512名、名誉会員41名）／団体会員21名

(2) 新入会者（2022年11月30日～2023年5月15日現在）：計28名（以下敬称略）

張 尋（京都大学・院）、藤本 澄江（学習院大学・非）、桜木 陽子（関西大学等・非）、謝 昀叡
（北海道大学・院）、宗 暁蓮（西南学院大学・非）、謝 辰（立教大学・非）、呉 琪（神戸大学研
究員）、矢野 諒子（辻調理師専門学校）、岡本 悠馬（フリーランス）、森川 寛（SC神戸中国語ス
クール・代表）、原田 夏季（フリーランス）、塩山 恵（遼寧大学・院）、張 曉琳（松山大学・特
任）、星野 泰代（大阪大学人文学研究科・院）、董 楽（大阪大学人文学研究科・院）、佐野 美穂
（兵庫県立錦城高等学校）、楊 宜璇（大阪大学人文学研究科・院）、小田 陽子（大阪大学・院）、
刘 鉴鋒（大阪大学・院）、李 丹芸（大阪大学・院）、張 金平（愛知県立大学）、夏 世明（関西大
学・院）、川田 健（東洋大学）、楊 沛（立教大学・非）、荒木 雪葉（福岡大学）、朱 藹琳（愛知
大学）、毛 興華（東京大学）、荒見 泰史（広島大学）

(3) 退会届け提出者（2022年11月30日～2023年5月15日現在）：9名

(4) 除籍者：除籍者については本来4月1日付で速やかに除籍処理をするところではあるが、今年度
については全国大会終了後に再度メールによる最終通知を行ったうえで除籍処理し、第2回理事会で報

告する旨が述べられた。

(5) 会費納入状況（2023年6月1日現在）：1,680,000円

2.2.2. 2022年度決算報告

2022年度の決算は本会報p.15の通りである。

2.2.3. 2023年度第1回編集委員会報告

石井委員長より、6月3日（土）9:30～10:30に編集委員会が開催された旨、『中国語教育』22号の編集日程に関して、別添の編集作業表に沿って一連の報告がなされた。注意点として、投稿受付開始を9月16日、投稿締切りを9月30日12時にそれぞれ前倒しすることが報告された。

2.2.4. デジタルリソース委員会報告

伊藤委員長より、学会ウェブサイトの更新と、外部団体等からの掲載依頼について報告がなされた。

2.2.5. 今年度研究会開催予定

研究会担当の長谷川理事より、今年度予定されている研究会について以下の通り報告がなされた。

第1回：2023年8月5日（土）（担当：西日本、オンライン開催）

第2回：2023年12月9日（土）又は12月10日（日）（担当：東日本、オンライン開催）

第3回：未定（2月又は3月のいずれかの土日で、オンライン開催）

[募集方法、内容]

- ・ 研究発表、授業実践報告等
- ・ 学会HPで募集する（団体または個人）
- ・ 発表者は会員に限る（団体の場合、筆頭者一名以上が会員であれば可）
- ・ 複数の応募があった場合、発表時期は発表者と協議する
- ・ 応募が少なかった場合、研究会委員で企画（講演、発表依頼）を考える
- ・ 事前にタイトルと400字以内の発表要旨を提出
- ・ 原則、全員採用とするが、複数の応募または発表内容により、断る可能性もあり
- ・ 発表は質疑応答を含めて40分以内
- ・ 参加費無料（非会員も参加可能）

[第1回 研究会（担当：西日本）]

日時：2023年8月5日（土）オンライン（zoom）開催

5月中旬 学会HPで開催日時の告知

6月3日（土） 全国大会総会で告知後、HPにて募集開始

募集締め切り 6月25日（タイトルと400字の要旨）

応募先 Email: kansai■jacle.org (■を@に代えて使用してください)

締め切り後、正式に学会HPで日程、発表要旨を告知

尚、応募者多数の場合は、次回以降の研究会での発表を打診する。

2.2.6. 全国大会について

森山委員長より、理事会開催当日に開催される第21回全国大会について報告された。大会初日に実施される講演について、これまでは会員が講演を行う場合には謝金の支払いはしなかったが、2022年度第2回の理事会において「全国大会及び研究会における講師謝礼の基準」に関する取り決めについて話し合った結果、講演会のような会員全体の利益になるものについてはたとえ会員であっても謝金を払うという方針の変更により、古川会員、郭会員には取り決め通り謝金を支払うことになったということが付け加えられた。

続いて氷野会長より、すでに決定している第22回大会（大阪大学箕面キャンパス）に加え、第23回の全国大会開催校が北海道大学（〒060-0808 北海道札幌市北区北8条西5丁目、田邊鉄大会準備委員長）に内定したことが報告された。その他の大会準備委員や開催日についてはいずれの大会も6月頃の開催となるが、北海道大会については実施予定校である北海道大学の学園祭や6月第1週に、「よさこいソーラン祭り」が第2週にあることから例年とはことなる日程で実施される旨が付け加えられた。なお、総会において平井理事から、高等学校中国語研究会が毎年第3週に全国大会を実施していることから同会との日程調整なども必要である旨が補足された。

2.2.7. 中国語教育ワークショップ・交流会の開催について

氷野会長より中国語教育ワークショップ・交流会ワーキンググループの活動について以下の通り報告がされた。

当ワーキンググループは自薦、他薦により、氷野善寛、阿部慎太郎、西村英希、太田匡亮を暫定メンバーとして運営している。

「中国語教育ワークショップに関するワーキンググループ」では、参加対象を中国語教育学会会員に限定した、中国語教育にかかわるワークショップを下記の通り企画・開催した。加えて、会員限定で録画も公開した。

・第1回中国語教育ワークショップ

2023年2月24日（金）20～21時

テーマ：「中国語教員として押さえておきたい中国語音声学の基本」

講演者：朱春躍（神戸大学 国際コミュニケーションセンター・教授）

形式：ZOOMを利用したオンライン講演

※終了後30分程度、会員同士の交流会も実施

ワークショップにおいては、メインテーマに「単音を中心に」というサブテーマが加えられ、音声

学の概説から母音と子音の音声学的解説まで充実した講演が行われた。ワークショップ終了後の交流会では、講演者朱春躍先生のご参加もあり、ブレイクアウトルームにて活発な意見交流が行われた。

今後の予定、方向性の審議事項

- ・2023年度は長期休暇を中心に2～3回程度実施する。
- ・「中国語音声学の基本」第2弾や「リサーチクエスションの考え方」などを中心に講演者を依頼するか現在ワーキンググループ内で検討している。
- ・運営上の問題として、録画の公開にどのようなプラットフォームを用い、いかに第三者への転送を防ぐかなど検討が必要でVimeoの限定公開機能（月額1200円）などの利用を検討している。

2.2.8. 2023年度第2回理事会開催日

2023年度第2回理事会の開催日および開催方法が以下の通り決定した。

日時：2023年12月2日（土）13:30～16:30

方式：オンライン

なお、第2回編集委員会は、同日同時刻までにオンラインにて開催予定。

2.2.9. 対外交流の動きについて

2022年度第2回理事会以降現在までの対外交流について、学会誌の寄贈状況が氷野会長より報告された。

- ・世界華語文教育学会（台湾）から雑誌『華語文教学研究』の「第17巻第2期 2020年6月発行」、「第20巻第1期 2023年1月発行」1冊が寄贈されてきた。本学会からは4月上旬に世界華語文教育学会（台湾）及び韓国中国語教育学会（韓国）に『中国語教育』第22号を送付した。
- ・2023年4月上旬に国立国会図書館に『中国語教育』第22号を2部納本した。

2.2.10. 新会員システムの導入について

WEB会員システムが大会開催以降、新会員管理システムに関する資料のとおり、リニューアルされることが氷野会長より報告された。

2.3. 審議事項

2.3.1. 『中国語教育』編集委員会関連事項

石井編集委員長より、『中国語教育』の投稿票およびテンプレートについて、下記の通り追加・変更の提案がなされ、審議の結果、承認された。

まず、執筆要領の改訂及び「見本（テンプレート）」の修正について、例年、投稿論文は他の種別なら採用可という意見が見られるが、昨年度理事会において投稿後の「種別変更」はできないことに決

まったため、執筆要項などに慎重に種別を選択する旨を明記する必要がある。以下の追加案を提案がなされた。

1) 執筆要領

※執筆要領の変更・追加案（赤字箇所）

1. 投稿原稿の種別

会員が投稿できる原稿の種別を以下の四つとする。

論文：先行研究を踏まえた独創性のある研究成果が、具体的なデータに基づいて論理的に述べられているもの。

実践報告：教育方法や教材開発など中国語教育に関する特色ある実践について、その目的、経過、成果などが、具体的かつ明示的に述べられているもの。

資料：中国語教育に関する言語データ、史的資料、現状調査、意識調査など、資料的価値が認められるもの。

書評：言語教育や中国語教育に関する著書についての書評。

投稿後の種別変更は認められないため、慎重に選択すること。

さらに編集委員会内で「教育学会内で論文と実践報告に優劣がない」ことを示すために、その旨をウェブページなどに明記することができないか、あるいは「論文、実践報告」となっている投稿種別について「研究論文・実践論文」といった形でいずれも論文という形にできないかなど意見が出されたことを追加説明された。この意見について、他の教育系の学会でもこのような区分も存在するという同意する意見が出された一方、実践報告には研究的な要素は伴わないとして、「論文」と冠するには反対であるという意見も出され、今回の理事会では結論を出さず、編集委員会ですらに他学会の投稿文などを精査したうえで、次期編集委員会、理事会への継続審議とすることが決定された。

「投稿後の種別変更は認められないため、慎重に選択すること。」という追記の案については、より詳細に「査読は種別に基づいて行われる。投稿後の種別変更は認められないため、慎重に選択すること。」という文言を追記することが決定された。

続いて査読報告書書式（フォーマット）について編集委員会内で議論されたことを、理事会で議論しいくつかの項目において修正が提案され理事会で承認された。

続いて石井編集委員長からは『中国語教育』第22号依頼原稿について、例年、会誌には「全国大会1日目の講演とシンポジウム原稿」を掲載しているが、今年度も同様の方向性で原稿依頼を検討する。ただし、シンポジウムについては、編集委員会を確認した上で、原稿依頼をするか否か、また依頼をする場合、どのような形で依頼をするなどを決定することが報告された。

2.3.2. 2023年度予算案

本会報の p. 16 に掲載の「2023 年度予算案」が承認された。

2.3.3. 名誉会員について

氷野会長より、名誉会員候補者に関して、2023 年 4 月 1 日現在で条件を満たす下記 1 名の会員が挙げられ、審議の結果、全員を名誉会員として会員総会で推薦することが決定された。

水野義道（敬称略）

2.3.4. 理事選挙のオンライン選挙化と選出理事の人数について

前回理事会までに今年度以降の理事選挙について、直近3回の投票率がいずれも30%に未満であること、それぞれの選挙の実施の際に20万前後の費用が掛かっていることからオンライン選挙を実施することを検討がなされている。またこの数年当選理事に辞退者が出ているため、理事の人数を確保するために選出方法に検討がなされてきた。そこで氷野会長から理事選挙のオンライン選挙の実施、それに伴う「会長、理事の選出に関する内規」の変更についての試案が提示された。

会長、理事の選出に関する内規（→第8条関連）	
新	旧
1. 会長任期2年目の年度内最後の理事会開催以前に、 <u>本学会が業務を委託するあゆみコーポレーションの会員情報システムの電子投票システムを利用したオンライン形式の理事選挙を行う。</u> 選挙権者は理事選16挙のある年の9月30日時点での全個人会員、被選挙権者は次年度に役員資格を有する個人会員（会長経験者を含む）とする。	1. 会長任期2年目の年度内最後の理事会開催以前に、 <u>事務局で郵便投票による理事選挙を行い、立会人2名以上のもとに開票する。</u> 選挙権者は理事選挙のある年の9月30日時点での全個人会員、被選挙権者は次年度に役員資格を有する個人会員（会長経験者を含む）とする。
2. <u>電子投票システムの利用及び開票作業においては、投票者の投票の秘密を保証し、公正な選挙運営を行う。</u>	(新規)
3. <u>電子投票システムを利用した選挙の開票時には、選挙業務を管理する事務局はあゆみコーポレーションより、被選挙人別投票データを電子ファイルの形式で受け取るものとする。</u>	(新規)

<p><u>4. 投票は6名まで選択できるものとする。</u></p> <p>5. 選挙開票後に開催される理事会において、得票数10位までを得た会員を次期理事候補として選出し、就任を依頼する（選出時に理事でない会員が含まれる場合は、議決権を有さないものとして当該理事会への出席を依頼する）。また、得票結果に基づいて次期会長候補を選出し、就任を依頼する。<u>ただし辞退者が出た場合は、11位以下で得票数が上位のものを選出し、理事候補が10名になるように努める。11位以下で票数が同数のものが複数いる場合は会員期間が長いものを優先し、それでも決まらない場合は年齢が上のものを理事候補とする。</u></p> <p>6. 就任を承諾した次期会長候補は、得票数によって選出された次期理事数を上回らない範囲で、個人会員の中から別途理事候補を選出し、就任を依頼することができる。</p> <p><u>この規程は2023年6月3日より施行するものとする。</u></p>	<p><u>2. 投票は6名連記とし、7名以上に投票したものは無効票とする。</u></p> <p>3. 選挙開票後に開催される理事会において、得票数10位までを得た会員を次期理事候補として選出し、就任を依頼する（選出時に理事でない会員が含まれる場合は、議決権を有さないものとして当該理事会への出席を依頼する）。また、得票結果に基づいて次期会長候補を選出し、就任を依頼する。</p> <p>6. 就任を承諾した次期会長候補は、得票数によって選出された次期理事数を上回らない範囲で、個人会員の中から別途理事候補を選出し、就任を依頼することができる。</p> <p>(新規)</p>
---	---

審議の結果、平井理事より6名以下であっても投票が無効にならないように留意する必要があると意見が提出され「投票は6名まで選択できるものとする。」という表現に調整された。その結果上記の通り改訂案が承認され、会員総会の報告事項として提出されることが決定された。

なお、氷野会長からは内規改正後の1回目の理事選挙では、電子投票について郵送による周知を行う旨が補足された。

2.3.5. 学会誌のデジタル化について

前回理事会までに学会誌のデジタル化について、以下の通り議論の方向性が決まっている。

- ・2021年度に「中国語教育学会著作権規程」を作成したことにより会誌のデジタル化への道筋がついたことによりデジタル化を進める。
- ・学会誌のデジタル化に関わるワーキンググループを設置する。

- ・J-STAGEでの公開について検討を実施する。
- ・本学会が発行する会誌のバックナンバーを執筆者の同意をとったうえでデジタル化し、J-STAGEでの公開することを検討する。
- ・デジタル化を実施するにあたっては販売委託を行っている内山書店との協議や、デジタル化する際に、紙版と同時にJ-Stageに載せるのか、一年間デジタル版の公開を遅らせるのかといった点についても検討する必要がある。

そこで、氷野会長より前理事会開催後に設置された学会誌のデジタル化に関わるワーキンググループ（田邊鉄会員・伊藤デジタルリソース委員長、相原前編集委員長、氷野会長で構成）内で議論されている内容について以下の通り報告された。

①デジタル化された雑誌についてはJ-Stageをプラットフォームとして選択し、バックナンバーを掲載する。

②デジタル化の作業は外部委託することを基本とし、他学会で実績のある株式会社ソウブン・ドットコムに見積もりを依頼した。結果1号ごとに最大70万円程度かかる見積もりを取得したが、原稿整理、組版、校正、J-Stage用データの作成、登録など実際には不要な項目も多岐にわたることから、必要な項目を整理して最終的にはバックナンバー全部で200万以下の支出に抑えるように調整できないか次回理事会までに引き続き検討を進める。

③最新号のデジタル化について、可能であれば紙版と同時に作成し、公開自体は紙版を出版後、1年程度遅らせてから掲載することを検討している。

平井理事から日本大学の論文のデジタル化の例として他の業者ではあるが20万円程度の費用でできているという事例報告もあり、ワーキンググループ内に持ち帰り、同一の条件で複数社見積もりを取得することなどが決定された。まだ実際にかかる正確な費用は未定ではあるが、デジタル化を速やかに進められるように、デジタル化に関わる費用として180万円を今年度予算に組み入れることが承認され、会員総会の審議事項及び報告事項として提出されることが決定された。

その他議案として、理事の多選問題、学会の情報公開及び中国語教育の実情調査について、会員名簿のオンライン化に関する検討などが前理事会からの継続審議として事前の議題に上がっていたが、時間の関係上、今回の理事会では検討せず、次回2023年度第2回理事会以降の継続審議となった。

3. 2023年度会員総会報告

3.1. 日時・方式

日時：2023年6月3日（土）17:10-18:00

場所：東海大学湘南キャンパス

議長：伊藤大輔

3.2. 審議事項

3.2.1. 2022年度決算報告

上記2.2.2.の決算報告が審議にかけられ、適切なものとして承認された。

3.2.2. 2023年度予算

上記2.3.2.の予算案が審議にかけられ、承認された。

3.3.3. 名誉会員の推薦

上記2.3.3.で推挙された水野義道会員を名誉会員とする案が審議にかけられ、承認された。

3.3. 報告事項

3.3.1. 会員動向および会費納入状況

上記2.2.1.の内容が報告された。

3.3.2. 編集委員会報告

上記2.2.3.の内容が報告された。

3.3.3. デジタルリソース委員会報告

上記2.2.4.の内容が報告された。

3.3.4. 2023年度研究会

上記2.2.5.の内容が報告された。

3.3.5. 全国大会について

上記2.2.6.の内容が報告された。

3.3.6. 理事選挙におけるオンライン選挙の導入

上記2.3.4.の内容が報告された。

3.3.7. WEB版会員名簿のリニューアル

上記2.2.11.の内容が報告された。

3.3.8. 学会誌のデジタル化

上記2.3.5.の内容が報告された。

3.3.9. 中国語教育ワークショップ・交流会開催報告

上記 2.2.7. の内容が報告された。

その他、総会時間の関係で、資料の提示のみとなったが、

以下の問題について継続的に議論している旨が報告された。

- ・理事の多選に係る諸問題、
- ・2年ごとに印刷配布している紙の名簿についての今後の在り方
- ・学会の情報公開及び中国語教育の実情調査の検討

4. 2023年度研究会開催報告

中国語教育学会2023年度 第1回研究会

2023年8月5日（土）13:00～15:20

日時：2023年8月5日（土）13:00～15:20

開催方法：オンライン（zoom）

13:05-13:45 謝昀叡（北海道大学・院）

「対面・遠隔場面における中国語学習者の聞き返しに関する考察」

13:50-14:30 馬花力（大阪大学・院）

「“別”構文の使用における主観性及び認知的解釈」

14:40-15:20 坂田美湖（北京大学・院）

「朗読訓練が日本人中国語学習者の発音流暢度及び学習感情に与える影響」

参加者数：約35名

5. 中国語教育ワークショップ

2022年度から会員向けに試験的に「中国語教育ワークショップ」を実施しています。中国語を教える教員として知っておきたい内容や中国語教育の研究者として知っておきたいことを中心に、講義形式で専門の先生にお話しいただきます。形式はいずれもオンライン（ZOOM）で、不定期で開催となります。講演については録画し、終了後アーカイブとして視聴できるよう整備しています。

開催報告

第1回中国語教育ワークショップ

日時：2023年2月24日（金）20:00～21:00

テーマ：「中国語教員として押さえておきたい中国語音声学の基本」

講演者：朱春躍（神戸大学 国際コミュニケーションセンター・教授）

形式：ZOOMを利用したオンライン講演

参加者数：90名

終了後、会員同士の交流会を実施

第2回中国語教育ワークショップ

日時：2023年9月8日（金）20:00～21:00

テーマ：「中国語教員として押さえておきたい中国語文法の基本
—教科書に出てくる文法事項との関連を中心に—」

講演者：丸尾誠(名古屋大学・教授)

メインターゲット：第2外国語で中国語を教える教員

形式：ZOOMを利用したオンライン講演

参加者数：約80名

今後の予定

第3回中国語教育ワークショップ

日時：2023年12月15日（金）20～21時

テーマ：「教材づくりのICT」

講演者：氷野善寛（目白大学・准教授）

メインターゲット：中国語教員全般

形式：ZOOMを利用したオンライン講演

第4回中国語教育ワークショップ

2024年2月25日（日）20～21時

テーマ：「リサーチクエスションの立て方～『中国語教育』への投稿」

講演者：勝川裕子（名古屋大学・准教授）

メインターゲット：大学院生、若手研究者、これから論文の投稿や研究発表を考えている人

形式：ZOOMを利用したオンライン講演

6. 事務局からのお知らせとお願い

6.1. 会員動向及び会費納入状況

(以下、敬称略)

(1) 会員数（2023年9月27日現在）：計579名

個人会員554（通常会員513名、名誉会員41名）／団体会員25名

(2) 新入会者（2022年11月30日～2023年9月26日現在）：計46名（以下敬称略）

張 尋(京都大学・院)、藤本 澄江(学習院大学・非)、桜木 陽子(関西大学・非)、謝 昀叡(北海道大学・院)、宗 曉蓮(西南学院大学・非)、謝 辰(立教大学・他)、呉 琪(神戸大学・他)、矢野 諒子(辻調理師専門学校)、岡本 悠馬(他)、森川 寛(SC神戸中国語スクール・他)、原田 夏季(フリーランス・他)、塩山 恵(遼寧大学・院)、張 曉琳(松山大学・他)、星野 泰代(大阪大学・院)、董 楽(大阪大学・院)、佐野 美穂(兵庫県立錦城高等学校・他)、楊 宜璇(大阪大学・院)、小田 陽

子(大阪大学・院)、刘 鉴锋(大阪大学・院)、李 丹芸(大阪大学・院)、張 金平(愛知県立大学)、夏 世明(関西大学・院)、川田 健(東洋大学)、楊 沛(立教大学・非)、荒木 雪葉(福岡大学)、朱 藹琳(愛知大学)、毛 興華(東京大学・他)、荒見 泰史(広島大学)、鎮 守琳(関西大学・院)、高 寧(北京語言大学東京校・非)、中川 真宏(他)、王 宇清(九州大学)、戸田 滯佳(金沢大学・他)、坂田 美湖(北京大学・院)、林 松涛(語林中国語教室・他)、久保 輝幸(横浜商科大学)、穆 雪梅(長崎外国語大学・非)、符 麗紅(富山大学・非)、陳 瀟瀟(法政大学・非)、方 雨琦(新東方前途株式会社・他)、栗原 諄彦(早稲田大学・院)、楊 知美(大阪府立東淀川高等学校・他)、李 穎慧(他)、何 静(名古屋大学・院)、張 玥(慶應義塾大学・非)、黄 曄勛(異文化コミュニケーション附属日本語学校)

(3) 退会届け提出者 (2022年11月30日～2023年9月27日現在) : 11名

(4) 除籍者 : 今年度の除籍者については第66号に指名を掲載します。

(5) 会費の納入状況 : 2,260,000円 (2023年9月26日現在)

6.2. 会費納入のお願い

会費未納の方は、お早めに納入くださるようお願い申し上げます。会費納入状況は会員自身でWEB版会員名簿(会員情報管理システム)にて確認することができます。

<https://a-youme.jp/jacle/member2/>

4月に郵送した払込取扱票を紛失された場合は、郵便局に備え付けの「払込取扱票」を使用して、下記の郵便振替口座に送金してください(その場合には、通信欄に氏名および会員番号を、会員番号がわからなければ、氏名に加えて学会に登録している住所を必ずご記入ください)。

[口座記号-口座番号] 00110-1-191152

[加入者名] 中国語教育学会

6.3. 退会および除籍について

退会を希望される方は、当該年度までの会費をすべて納入した上で、学会サイトの「Web版会員名簿・変更手続き」にログインして退会手続きを取っていただきますようお願いいたします。なお、会則第5条に基づき除籍になった会員は氏名が会報に掲載されますのでご注意ください(会報は学会Webサイトで公開)。退会届が受理された場合、退会者の氏名は掲載いたしません。

6.4. 登録情報の変更について

学会登録情報(住所・所属・メールアドレス等)に変更がある場合には、会員自身が本学会サイトの「WEB版会員名簿・変更手続き」にログインして、ご自身で変更していただきますようお願いいたします。

WEB版会員名簿(会員情報管理システム)の運用については、あゆみコーポレーションに委託しております。WEB版会員名簿に関するお問い合わせは下記のあゆみコーポレーションまでお願いします。

〒550-0001

大阪市西区土佐堀1丁目4-8 日栄ビル703A

あゆみコーポレーション内 中国語教育学会事務局事務代行

E-Mail : support@jacle.org

TEL. 06-6441-5260 (代) FAX. 06-6441-2055 (代)

あゆみコーポレーションは複数の学会の事務局代行を行っており、電話番号、ファックスとも他学会と共通で使用しているため、ご連絡の際には「中国語教育学会」についての問い合わせであるということをお伝えください。

6.5. 住所不明の会員（敬称略）

下記の会員が住所不明で学会からの郵便物が返送されてきています。連絡先をご存知の方はあゆみコーポレーション内の事務局事務代行（support@jacle.org）までご連絡ください。

徐 佳 様、苞山 武義

中国語教育学会 2022年度会計決算書


	収入		支出	
	2022年度予算	2022年度決算	2022年度予算	2022年度決算
会費	¥2,400,000	¥2,568,797		
事務委託費(郵送費を含む)			¥800,000	¥628,306
事務費(事務局)			¥60,000	¥21,415
郵送費(事務局)			¥15,000	¥7,749
振込手数料			¥10,000	¥3,120
会議費			¥50,000	¥0
旅費			¥150,000	¥0
全国大会開催費		¥296,713※1	¥400,000	¥400,000
研究会等開催費			¥200,000	¥11,137
会誌編集印刷費			¥600,000	¥665,500
会誌売上	¥50,000	¥94,500		
幹事手当			¥300,000	¥300,000
利子		¥50		
小計	¥2,450,000	¥2,960,060	¥2,585,000	¥2,037,227
前年度繰越金	¥6,629,313	¥6,629,313		
予備費/次年度繰越金			¥6,494,313	¥7,552,146
合計	¥9,079,313	¥9,589,373	¥9,079,313	¥9,589,373

※1 第20回全国大会の余剰金返金分

監査の結果、経理内容は適切であり、会計諸表は的確に処理されていることを認めます。

2023年 4月 9日

2022年度会計監査

板垣友子 

2022年度会計監査

赤池晴香 

資料 2 2023 年度予算案

	収入	支出
前年度繰越金	7,552,146	
会費	2,400,000	
事務委託費(郵送費を含む)		1,300,000
事務費(事務局)		60,000
郵送費(事務局)		25,000
振込手数料		15,000
会議費		50,000
旅費		400,000
全国大会開催費		400,000
研究会等開催費		100,000
会誌編集印刷費		650,000
会誌売上	50,000	
電子化作業費		1,800,000
幹事手当		330,000
小計	10,002,146	5,130,000
予備費/次年度繰越金		4,872,146
合計	10,002,146	10,002,146